

科学技術庁も認めた 活断層 / ウソをき 東電を許すな

4月9日 地盤問題で科学技術庁を追及

去る四月九日、守る会連合、原発反対同盟は、柏崎地区党、社会党国会議員とともに柏崎原発地盤問題を科学技術庁を追及しました。この中でいくつかの重要なことが明らかになりました。

柏崎原発は活断層の上!!

この日、科学技術庁は、私たちの実例を示した追及により、「昨年暮に三回にわたって現地調査をした結果、用地内にも活断層があることがわかった」とし、しぶしぶ認め、私たちの正しさに屈しました。

これまで東京電力は、「用地内には活断層はみあたらない」といい続けてきました。新潟県当局も「活断層は見あたらない」と言ってきました。

しかし、私たちは用地内にも無数の活断層があることを調査確認し、東電や国、県等を追及してきました。

アメリカの立地基準では、「活断層から四〇〇メートル以内にはいかなる原子力施設も作ってはならないこと」など、活断層についての厳しい規定を設けています。

そのため東京電力はかたくなに「活断層はない」と主張し、県当局も東電の立場を擁護するため、「活断層は見あたらない」とウソを言っていたのです。

今回科学技術庁が認めた活断層は、私たちが確認したもののほんの一部でしかありません。科学技術庁は無数にある活断層の一部だけを形式的に調査することで、「たいした問題はない」とごまかすこんたんです。

「真殿坂断層の調査しない」「安全審査は信用できない」 科学技術庁の暴言!!

私たちは原発用地北東から用地内に真殿坂大断層が走っていることを明らかにしてきました。真殿坂断層上では、現在でも道路が沈下したり、家が傾いたりという被害が続いています。

これに対して東電は、「真殿坂断層は刈羽村滝谷で終わっていて用地内には延びていない」と主張してきました。

科学技術庁は「真殿坂断層については調べてもいないし、調べる必要もない」などと勝手な理屈をつけています。

このように原発建設の障害になることは調査しないという態度は絶対に許せません。まして、「活断層はない」とウソを言い続けた東京電力には原発をつくる資格などありません。

4月25日国会調査団報告集會に参加しよう

真実を見きわめよう！

きたる四月二十五日、柏崎原発の劣悪地盤問題調査のため、地質学者と共に国会調査団が来柏します。現地調査の後、夕方五時半から報告集會が開かれます。ご近所おさそいあわせの上、ぜひお集りください。

柏崎原発用地内に活断層／国会調査団報告集會

◎とき／4月25日(月) 夜5時30分

◎ところ／柏崎市民会館ホール

◎報告／社会党国会議員団

生越 忠氏(地質学者、和英大教授)

◎報告内容／柏崎原発地盤問題、美浜原発の事故など、原発労働者の被曝死等

◎主催／柏崎川羽原発反対守る会連合、柏崎原発反対同盟、柏崎地区労、日本社会党原発反対現地闘争本部

お先

真暗の東電、柏崎原発計画をまた延期

みなさん、東電の当初計画では、今年四月から柏崎原発一号炉の運転が始まっているはずでした。しかし現実はどうでしょう。原発に關係する道一本作られています。事務的な手続きはコンコンと進めているようですが、その一方で東電は炉型の変更という重大問題を検討しています。

これまで東電は、アメリカGE社の軽水炉沸騰水型原発を計画していました。ところがその沸騰水型はどこでも事故続きで満足に運転しているものはありません。そのため東電は西ドイツKWU社の加圧水型に変更しようとしているのです。

先頃、日本原子力発電(株)も、GE社の沸騰水型に見切りをつけ、アメリカWH社の加圧水型原発に乗りかえています。しかし、美浜原発でも明らかのように、加圧水型も致命的な欠陥をかかえ四苦八苦しているのが実情です。

さらに使用済核燃料再処理の見通しは一層絶望的です。

アメリカのカーター大統領は、再処理は核拡散につながるとして全面否定の政策を打ち出しました。このため、日本の原子力政策は根底からくずれさうとしています。このことは石油ショックで打撃を受けた日本財界が「原子力こそ安定したエネルギー源だ」と宣伝し強引に推進してきた原発が早くも破たんしたことを物語っています。

こうした中で最近東電は、柏崎一号炉の着工を更に一年半延期すると発表したのです。

「原発を進めるゾ」という半面電力会社と原発推進派の内部は大ゆれにゆれているのです。

炉心から東300メートルに活断層！

～ 東電—安全審査会の居直いを許すな!! ～

1977-4-25

相模川原発反対を守る会連合

相模川原発反対同盟

(代表者 川 玄一)

炉心から三〇〇メートルに活断層あり。

東京電力はこれまで原発用地内に「活断層はない」と主張してきました。県当局も「活断層は見当らない」としてきました。

しかし、反対同盟のこれまでの調査で、原発用地内に見られる古砂丘の露頭(崖)ハケ所に活断層があることがありました。そのうち、炉心に最も近いものは炉心からわずか三〇〇メートル東の位置です。このことをアメリカの土地基準に照らすと「原発は作ってはならない」となります。ついに活断層を認められた科学技術庁の。

「活断層はないから問題ない」といって、ゴマカそうとってきた安全審査会は、私たちの指摘を受け、形式的に一部の活断層を昨年暮に調査しました。そして今では「活断層はある」ことを認め、「しかし、工学的に対処する」といって、さらにあくまで「ゴマカシを重ねよう」としています。

真殿坂断層は炉心真近かにある。

用地の東北部には真殿坂大断層があり、用地内に延びています。真殿坂断層の付近では家が傾いたり、道路が陥没したり、漏水したりという被害が今も続いています。

これまで東電は「真殿坂断層は用地内に延びていない」と主張してきました。しかし、私たちの調査から真殿坂断層は炉心真近かを通り、鰐石川河口まで用地を横切って続いていることが明らかになりました。この争は、用地内でも断層にそって点々と漏水していること、断層の連続を裏づける地形へ「飛石」も連なっていること、また、用地南西部の県道荒浜—安田—新道線の陥没が続いていることでもはっきり示されています。

「活断層はない」「見当らない」と主張してきた東電—安全審査会は、活断層を具体的に指摘されると「活断層はあるが工学的に対処する」とその場しのぎの説明をくり返して、劣悪地盤の上で危険性、非経済性が明らかとなった原発を強引に建てようとしています。無責任、無能力の安全審査会を徹底的に追及し、ゴマカシの安全審査を粉砕し、相模川原発計画を阻止しましょう!!!

柏崎原発用地(炉心近く)に活断層あり!

国会調査団報告集会に

連れだって行きましょう!

1977.4.24
原発反対 荒沢守敏

とき → 4月25日(月) 夜5時30分~

ところ → 柏崎市民会館 大ホール

* 集会終了(8時頃)後、貸切バスが出るので帰りの心配はないです。

明日25日、社会党国会議員を中心とし、大学教授もまじえた“地盤調査団”が来柏し、原発用地内の活断層と東電の試掘坑内を調査します。一昨年の秋「原発用地の地盤はトウフのようにやっこいし、もろい」ことを私たち住民が証拠をあげて指てきて以来、東京電力はずっと「用地内には活断層なんかない」と言いはりました。しかし、科学技術方は私たちの実例をあげた追及によって、つい先頃「用地内には活断層がある」としつと認めました。

このように東電は柏崎に来てからいつもウソを言い続けてきました。又、市や県もその片棒をかついで、私たち住民をだましてきました。全く信用がなありません。

ウソだらけの原発問題を、自分自身の目と耳でたしかめてみるのが一番です。柏崎での集会ですが、帰りのバスも用意したので、ぜひ合わせて参加してください。

安全審査通過の原発 すべて事故!

近頃の東電の推進ピラには「厳正な安全審査を信頼しよう」といった文句が目につきますが、「安全」審査を信用するとどういふことになるかは、各地の原発を一目見ただけで明らかです。今まで建設された原発は、「安全」審査を通過しながら、一基残らず事故・故障を起こしているのです。しかも、電力会社が申請した原発で、「安全」審査^の認可が降りなかったものは一つもないのです。いかにその審査内容が、電力会社の言い分だけを信用したいいかげんなものであるかということがわかります。

更に、東電が柏崎に作るようとしている原発はBWRですが、このBWRは、全国でも基あるうち4基は、BWRの致命的欠陥と言われている“ひびわれ事故”のため止まっています。東電もこの事態を重視し、BWRを作るのをやめようと考えているところなのです。しかし、柏崎だけは、何が何でもこのオンボロBWRで見切り発車をしようとしているのです。

こんなデタラメな「安全」審査で認可される危険なBWRを、柏崎に絶対に作らせてはなりません。

77. 6. 14

柏崎原発反対在京者青年会議

原発試掘坑内に活断層を確認 → 圧力容器までヒビ割れ
 6.21東電追及交渉、6.23荒浜集会以連ねだつて
 お集まり下さい。 [77.6.19 原発反対荒浜を守る会]

昨年来、日本をはじめ世界各国の原発反対運動は力強く展開されています。国内においては、原発は12基のうち8基までが致命的な事故で停っています。特に美浜一号炉と福島一号炉は、何年間も停ったままで、再起不能とされています。最近では、島根原発をはじめとする4基のふっとう（水型原発の制御棒駆動水戻り）スルのヒビ割れが発見され、原発の心臓部とも言える圧力容器本体にまで、サビやくされが進んでいることがわかりました。

又、柏崎原発予定地では、反対同盟の調査で、炉心がおかれるという試掘坑の中や炉心からわずか300mの位置に“活断層”があることが明らかになりました。アメリカでは活断層があるような悪い地盤の所には原発をつくってはならないという基準があります。

東電は「活断層はない」とウソを言っています。

安全審査会は、始めのうちは「ない」と言っていましたが、私たちの争いにもとづいた指摘を受けて逃げきれなくなつて、今では「ある」ことを認め、しかし「工学的に対処する」と、あくどいゴマカシをしようとしています。

東電と安全審査会は、劣悪地盤の上に危険性・非経済性のハッキリした原発を強引につくらうとしています。

私たちは強い“いかり”をもって、東電に欠陥原発と劣悪地盤について抗議と追及をしたいと思います。

又、去る4月25日の調査で明らかになった試掘坑などの活断層や原発の最近のヒビ割れなどを報告し、今後のたたかいについて話し合うために荒浜集会以を計画しました。

多数の方々の参加をお願い致します。

* 東電追及行動 ⇒ 6月21日(火) 5時30分^迄 ~
 場所 / 東京電力 現地争い所 (市内長浜)
 内容 / 福島原発の事故、地盤について

* 原発反対 荒浜集会以 ⇒ 6月23日(木) 7時30分^迄 ~
 場所 / 荒浜公民館
 内容 / 活断層調査報告 (スライドなど)
 荒浜村有地と今後のたたかい方

※ 会計報告 (昭51~52年5月末) (単位 円)

収 入	金 額	支 出	金 額
前年残金	45,281	原発反対資料代	16,000
今年カンパ	36,000	伊方原発訴訟へカンパ	5,000
		看板・旗・標板 材料	55,780
		セメント (団結小屋)	1,950
		団結小屋修理代	2,000
合 計	81,281	合 計	80,730

差引残高 551円